

認証評価受審における責任者の役割について

愛知産業大学 堀越哲美

【受審のまえに】

(公財)日本高等教育評価機構の認証評価を受けるにあたり、体験したことを述べ、それらを認証評価受審当日の説明、質疑等にどのように活かし繋げていったかを振り返りたいと思います。

認証評価受審は、私にとっては初めての経験でもあり、何をどのように行うかを調べることから始まりました。審査される事項や項目として何が取り上げられ、前回からの変更点は何か、そしてどのような点が気を付けるべきことか、についてまずは自学自習をおこないました。そして基礎的な知識をなぞらえた後、認証評価に実際に携わっている本学教職員に、認証評価ではどのような点をポイントとして主に考えたらよいのか、資料としては用意すべきものは何なのかといった点につきまして、おおよその内容とそのポイントをご教示頂き、機構の評価セミナーに出席しました。そこで、過去の事例を基にどのように資料を収集し、評価書を執筆するかのプロセスと日程を考えることとしました。

これらについては、学内の自己点検・評価委員会を基盤として議論を行い、認証評価経験者・被経験者に行うべき方向性について意見を求め、議論し、学長のリーダーシップの下、受審体制と手法を最終決定しました。

【受審の状況】

以下に日程が決まったのちに実際に経験・体験した認証評価についての責任者として考えたこと、そして実際に実施したことや状況を述べ、責任者として果たしてきた役割の一端を紹介いたします。

1. 平成 27 年度に認証評価を受けるに当たり、本学が独自に実施している「隔年実施」の大学の自己点検評価をどのように行うかを考えました。将来的な自己点検評価システムの見直しも考慮し、今回の受審に際しては、資料等のまとめやすさや IR データの蓄積も考え、平成 25 年度の自己点検評価をまず行い、そののち平成 26 年度の自己点検を行うこととし、これをもって認証評価を受けることとしました。付け加えますと、平成 28 年度から実施する本学独自の自己点検評価は「毎年実施」といたしました。
2. 評価書の作成に当たっては、評価機構の様式にのっとり、関係する項目を関係教職員に割り当てて、分担して執筆することとしました。これは、重要な論点・特徴点そして課題点をその項目の関係者が、日ごろから対象に直接接していて、一番正確に内容を把握できると考えたからです。逆に、知りすぎていることで見落とすことも考えられましたが、後述のように別途拾遺できる体制を整えることで回避できると考えました。

この点について以下の対策を考えました。

- ① 文章や表現については、全体の草稿や下書きがおおよそ形となった時点及びできた時点で、統一的に参加者全員により読み直すことを行うこととしました。

- ② できるだけ多くの人の目に触れるようにそして内容と情報を共有できるような機会を早々に設定しました。これを基に関係者全体で議論することで、内容と文章ともによりブラッシュアップを図ることとしたわけです。
3. 各項目の課題点の抽出・重要な点の把握は担当者が行い、全員に説明することで内容の共有化を図りました。
- これは、この時点で誰がその項目の担当であるかを確認または適切かを再考でき、学長が個別と全体像を把握できることにつながると考えたからです。
4. 認証評価受信当日は、できるだけ関係者・担当者が出席して評価を受けることにしました。内容と情報を把握していることで、出席者も自信を持つことができると考えた次第です。
- これによって、詳細までを大学全体として把握していることになり、学長が説明者を容易に指名して回答できる体制をとることができたと思います。
- 全体での共有がなされているので、学長は項目がわかれば、そのことについてブリーフィングを容易に行うことができ、詳細については担当者に丁寧に回答していただくことができました。教職員間の信頼関係の醸成にもつながったと思います。
5. 評価書の統一的な表現をまとめることを目指すために、学長は何度も通読することを求められることとなります。その通読の際に、各項目の文章等に残る“くせ”によって、それぞれの内容の特質を把握でき、後で内容を思い出すきっかけともなったと考えています。全体を一人が平板的に書ききる方法とは異なった意味での長所として取り上げ、評価することも大事であることが、思わず見いだされたようです。
- 学長以外のある人物によって、一人で書かれたものであったら、このような特質が残ったかどうかは分からないところです。学長一人で書いたとしたら平板的にしか見えず、特徴をよく示せたかどうかは分からないと考えました。災い転じて福となった事例でもあると思われれます。
6. 最後に、大学だけでなく法人本部との連携も重要であることは言うまでもありません。財政的な点については特に法人本部に負うところが多く、参加なくして点検評価はできないのが実態です。これらの状況把握や情報共有をすることは責任者の重要な役割であると思われれます。今回は、理事長はじめとする法人本部との連携が十分に発揮できたと考えています。

【振り返って】

(公財) 日本高等教育評価機構の認証評価の受審は、大学にとって様々な課題の掘り起こしとそれをどう乗り越えてきたかということ振り返ることにつながると考えられます。その意味では、大学や学校法人にとってその歩みにおける客観的な見直しや冷静な判断につながるような評価書の作成や資料整理、大学・法人そして教職員を通じての情報の共有を確実に行うことにつながるものであり、良い振り返りの機会になると考えられます。その意味で、大学の責任者の役割は、点検評価を適切にかつ効率的に行う準備から実施についての責任を持ち、一人抱えこまない情報や資料・志向の共有、作業の協同そして大学を思うことの共感を醸し出す環境を作り出すことであり、それがとても大事なことであることを感じた次第です。